

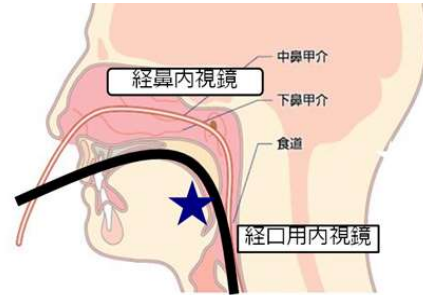
上部消化管内視鏡検査に関する説明書



動画説明は
こちら

【 検査の目的 】

鼻または口から、細く柔らかい管状の内視鏡を食道・胃・十二指腸に挿入し、腫瘍・潰瘍・炎症等の異常を見つけるために行います。
検査時間は5～10分程度です。



【 検査の方法 】

●鼻からのカメラの場合(鎮静剤は使用しません)

①鼻の通りを良くする液体と麻酔のゼリーを両方の鼻に入れます。

②鼻からカメラを挿入します。

*口からのカメラに比べ、吐きそうになる事が少なく、会話しながら検査が可能です。

*鼻の通り道が狭く、鼻からカメラが入らない場合は、口からのカメラに変更しますが、細いカメラを使用させていただきます。

*鼻の通りが狭い場合は、時に鼻血が出たり、痛みを伴うことがあります。

●口からのカメラの場合

①口に麻酔のゼリーを含み、5分程したら飲み込みます。

②のどの奥に麻酔のスプレーをします。

③マウスピースをくわえ、カメラを口から挿入します。

*鎮静剤を使用せずに、検査は可能です。

*鎮静剤を希望される方は、鎮静剤の注射をします。

(鎮静剤使用に関する説明書をお読みになって下さい)

*鎮静剤使用時は、別途3,300円(10%税込)が必要です。

●病理組織検査について

※病理組織検査とは、病変が見つかった場合、胃粘膜の一部を採取して、その病変が「悪性」又は「良性」なのかを判定する検査です。

※当健診センターでは内視鏡医師の判断により、病理組織検査を健診費用とは別に、保険診療として、約4,000円(3割負担の場合)で行うことができます。

※病理組織検査の結果は、2週間後以降に予約を取り、1階外来診察にてご説明致します。

●ピロリ菌について

※ピロリ菌とは、胃粘膜に棲みつき、潰瘍や胃がんの原因になることが知られています。

※当健診センターでは、血液中のピロリ菌に対する抗体検査の量を測定できます。

ただし、過去にピロリ菌の除菌をされた方は、正しい判定が出来ませんので、お勧めしません。

※内視鏡検査を受けられる方のオプションとして、別途2,200円(10%税込)で行うことができます。

【 検査に伴う危険性と偶発症 】

きわめて稀に偶発症(患者さんへの不利益な事故)が起こることがあります。

●前処置(咽頭麻酔や鎮静剤)に伴う偶発症・・・アレルギーショック、呼吸困難、血圧低下

●検査に伴う偶発症・・・歯が折れる、鼻血、消化管出血、穿孔(消化管に穴があく)等

～消化器内視鏡学会の全国調査による偶発症の発生頻度～

☆前処置に伴う偶発症 0.0028%(約35000人に1人)死亡率0.00005%(約200万人に1人)

☆検査に伴う偶発症 0.0069%(約18000人に1人)、死亡率0.00012%(約80万人に1人)

※万が一、偶発症が発生した場合は最善の処置を致します。

なお止血、外科処置などの為に他の医療機関に緊急搬送させて頂く場合がございます。

鎮静剤を使用しての上部消化管内視鏡検査を希望される方へ

【 鎮静剤使用の目的 】

鎮静剤とは、検査中の不安や緊張を和らげる作用のある薬で、麻酔薬ではありません。鎮静剤の効き目は薬の量や年齢によりかなり個人差があり、偶発症も起こる可能性がありますので、その危険性を十分にご理解いただいてから、使用されるかご判断ください。

【 検査の方法 】

- 通常の前処置を済ませ、検査台に横になられた後、鎮静剤を静脈注射します。
- 検査終了後、約1時間 ベッドで休んでいただきます。
- 検査終了から1時間程経って、喉のしびれ感が取れたら、少量の水分を試していただき、むせなければ、お食事していただいて結構です。

【 鎮静剤を使用するにあたっての注意事項 】

- 鎮静剤使用後は、薬の影響でふらついたり、判断力が低下する恐れがあります。安全のため、**検査後に運転をされる予定の方には鎮静剤を使用することはできません。**ご自身で**車・バイク・自転車等**の運転は大変危険で、事故につながる可能性がありますので絶対におやめください。付き添いの方と一緒に来院していただくか、公共の交通機関を利用してください。検査後、運転する予定がある方には、鎮静剤を使用せずに検査を受けていただくという対応をさせていただきます。(鎮静剤を使用した場合は、翌朝まで運転はできません)
※交通事故を起こした場合、飲酒運転と同様に危険運転致死罪に該当する行為となります。当院では、鎮静剤使用後の交通事故、交通違反等による責任は一切負いかねます。
- 重症筋無力症、急性閉塞隅角緑内障(きゅうせいへいそくぐうかくりょくないしょう)にかかっている方は、鎮静剤を使用すると症状を悪化させる可能性がありますので、鎮静剤を使用する事はできません。

【 鎮静剤の偶発症 】

鎮静剤は検査の苦痛を軽減するためには大変有効ですが、まれに偶発症(患者さんへの不利益な事故)が起こることがあります。内視鏡学会の全国調査では、その頻度は0.0013%(8万件に1件)、死亡率は0.000024%(400万件に1件)と報告されています。

<偶発症>

鎮静剤注射部位の炎症、静脈炎、血管痛、アレルギー、血圧低下、不整脈誘発、呼吸停止、覚醒遅延(目が覚めにくい)、健忘(記憶がなくなる)などがあります。万が一、偶発症が発生した時は最善の処置をいたします。